

日本経済新聞社の大罪

薄商いの中で日経平均だけが乱高下する状況が続いている。前場 200 円安を確認し、外出から帰ってきたら 100 円高だったとか、300 円安の翌日、理由もなく 400 円高したりしている。日本の株式市場は益々つまらない市場になっている。一般投資家はどんどん離れていってしまっている。このような現象が一部のヘッジファンドに日経平均の指数が操作されているからだと言う指摘は随分まえからあった。しかし今やその程度が目にも余ると感じているのは私 1 人ではない。私が注目している株式市場の論者である三菱UFJ の藤戸氏のレポートは二回に一回はこの現象を嘆いている。ヘッジファンドのこうした跳梁をゆるしているのは、よく知られているように、日経 225 という指数がいびつな構造をしているからである。日経平均は株価の単純平均であるため、発行株数は考慮されず、株価の大きさのみが影響する。8 月 19 日の日経平均 13758 円のうち、ファーストリテイリング(以下FRと記す)一銘柄が 1289 円を占める。実に 9.36% である。これに対し新日鉄は僅か 12 円、0.086% の軽さしかない。つまりFRやソフトバンク等の上位 10 銘柄等を相当程度仕込むことで先物を操作しながら日経平均を操れるようになるのである。

殊にここにきて日銀がETFを購入することが国策となったためこれら上位銘柄の浮動株は殆ど吸い上げられてしまった。日銀が仮に日経平均のETFを 100 億円買いたいと証券会社に申し出た時、既に上場しているETFを 100 億円買うのではない。市場から 225 銘柄を買い集め新たに組成して上場させるのである。その時自動的に 100 億円の 9.36% 分の 9 億 3600 万円のFR株が吸い上げられ浮動株から固定株に化すのである。恐らく今やFRの浮動株は殆どないのではなからうか？

枯れ切った株を操作するのは簡単である。ヘッジファンドの輩は、午前中日経平均を大崩れさせ、その間に株式オプションのコールを大量に仕込む。午後日経先物を買って煽って裁定買いを誘い、2 倍になったコールを売り逃げして大儲けする。

こんな簡単な仕組みは何年も前から指摘され続けていた。しかし今や指摘する時代は終わった。我々はこのようないびつな指数を放置し続けている日経新聞社に改善を求める時だ。FRやソフトバンク等寄与度の高い銘柄を 225 採用からははずすことを求めるべきだ。或いは大幅分割させ株価を下げさせしかもソフトバンク等で行っている八百長である 2 倍してもとに戻すという操作をやめさせるべきである。

或いは東証と大証が合併した今、大証の為にあったに日経平均先物を廃止し、TOPIX 一本に絞るべきである。

現在の日経平均の存在は日本の株式市場にとって百害あって一利ないからである。

平成 25 年 8 月 20 日記

千葉の県人 鎌田 留吉